

# いいことはぜったいある (5年)



さいゆうしゅうしょう  
最優秀賞

5年生ねんせいになってすぐに、国語こくごで「銀色ぎんいろの裏地うらじ」という物語ものがたりの勉強べんきょうをした。この話はなしは、三人さんにん仲よしなかだったグループが、学年がくねんが上がってクラス替えあがあり、主人公しゅじんこうの女おんなの子こが一人ひとりになってしまうことはじから始まる。

ぼくも、クラス替えがをしたばかりで、仲なかのよかった友だちともと離れてはなしまい、不安ふあんな気持ちきもちで心こころがいっぱいこころになっていた。主人公しゅじんこうの理緒りおは、新しいクラスあたで出会であった、ちょっと苦手にがてだと思おもっていた友だちともに声こえをかけられ、仲なかよくなり始はじめていった。その友だちともが、理緒りおに「いいことはぜったいある。」という言葉ことばをかけたのだが、ぼくにも、この言葉ことばがグッとひびいた。

それは、クラス替えがをした次つぎの日の昼休みひるやすのことだった。教室きょうしつで一人ひとり、絵えを描かこうとしていた時ときに、4年生ねんせいまであまりしゃべってともいなかった友だちが「いっしょそとに外いへ行って遊あそばない？」と声こえをかけてきてくれたのだ。ぼくは、それまで、室内しつないで遊あそぶことおおが多おほかったので、不安ふあんだったぼくに声こえをかけてもらえたことと、なかなかしなかった外そとで遊あそぶということが重かさなり、すごくうれしかった。そして、久しぶりひさの外遊そとあそびが、よけいに気持ちきもちよく感かんじた。

「いいことはぜったいある。」ぼくにも、本当ほんとうにいいことがおきた。それは、ぼくに声こえをかけてくれた友だちともがおこしてくれたのだと思おもう。友だちとものよさかんを感じられてよかった。次つぎは、ぼくが友だちともにそんな気持ちきもちになってもらえるようこえな声かけこえをしたい。